

ひとを育てる活動

ハイスクール年限、4年から6年に延長

— HANDS 奨学生も新1年7名から適用 —

フィリピンでは、この6月の新入生から中等教育年限を6年間に変更しました。ハイスクール卒でも社会で働ける知識と技能を習得するためと思われませんが、授業料は原則無料でも、実習等の教材費や通学費などがかかるため、中退者が増えることが懸念されます。一方で、ブラクールで3年間支援した職業教育のように、技術家庭科の授業で実践的技能修得ができれば、専門学校進学が必要なくなります。

HANDSの今年のハイスクール新1年生は7名です。月額1500円でのご支援よろしくお祈いします。

もう一名 JAUM 東京支部の奨学生に！



ジェニリン・ヌガイ
(18歳)。マルンゴン町ラムトゥボ村出身のピラーン民族。GSF カレッジ教育学部英語専攻1年。

昨年度のカルメラに続いて、新たに、ジェニリンが JAUM (日本女性大学協会) 東京支部奨学生に決まりました。

教師その他の専門職に就いて、地域や村のために働く発展途上国の女子学生を応援する JAUM 奨学金の主旨を、2人のピラーンの子どもたちが全うできるように、私たちも応援したいと思ひます。幸い、カルメラもよい成績で3年に進みました。

精神疾患のエドナ、復学です



本会報で回復ぶりを伝えてきましたエドナが、6月初め、ミアソンの公立ハイスクール3年生に復学しました。

7月下旬の CMIP 報告では、寮生活、学校生活ともに順調とのことでした。

あしながカレッジ奨学生は当面2名で

ブラクールハイスクール3月卒業のジェロームを加えて3名の予定だった奨学生は、入学手続きが間に合わず、ジェロームは後期10月の入学となりました。4年生のジョセフ、専門学校2年のアイリーンは来年3月に卒業します。あしなが奨学金は現在5名の会員で支えていただひています。

COWHED を通じ、カレッジ生2名に奨学金

— 組合員支援の一環として —

COWHEDとは過去11年間、伝統的文化継承と収入向上の分野に限定しての協力関係でした。今年度から、組合員のニーズが強いカレッジ生2名の支援を始めます。母親のティナラク織等の手仕事だけでは支えきれない分を、一人年12,000ペソ(約2.3万円)の奨学金で応援します。資金は日本でのハンディクラフト販売収入を充当する予定です。



スージーメイ(左)

17歳。教育学専攻1年。



セラマエ(右)

23歳。心理学専攻3年。

ともにティボリ民族

開校2年目を迎えたナフル鎌ヶ谷小学校

「まず小学校を！」から、今年度は教育学部を出たロニー先生が加わり、経験豊かなゴンサロ先生、明るく活発な補助教員マイラ先生の計3人で、教育の質も期待できそうです。1年生69人、2年生82人、3年生40人の合計191人が、元気いっぱい新学期を迎えました。給与は、ロニー先生とマイラ先生はWE21ジャパンさいわいから、ゴンサロ先生は今年もICECKからご支援いただく予定です。



卒業生近況 — スヌーリアの学校農園事業 —

村役場の収入役として働きながら、HANDSの平賀基金で、学校農園や村の子ども10名のハイスクール奨学金事業を運営してきたスヌーリア。2年後の完全自主運営のため、コーンの集荷・出荷事業を始めたという相談がありました。HANDS奨学金の恩返しを自分の村でという彼の一途な思ひは、時にCMIPの方針と異なることもありましたが、現在は自立のモデルケースとして見守っています。